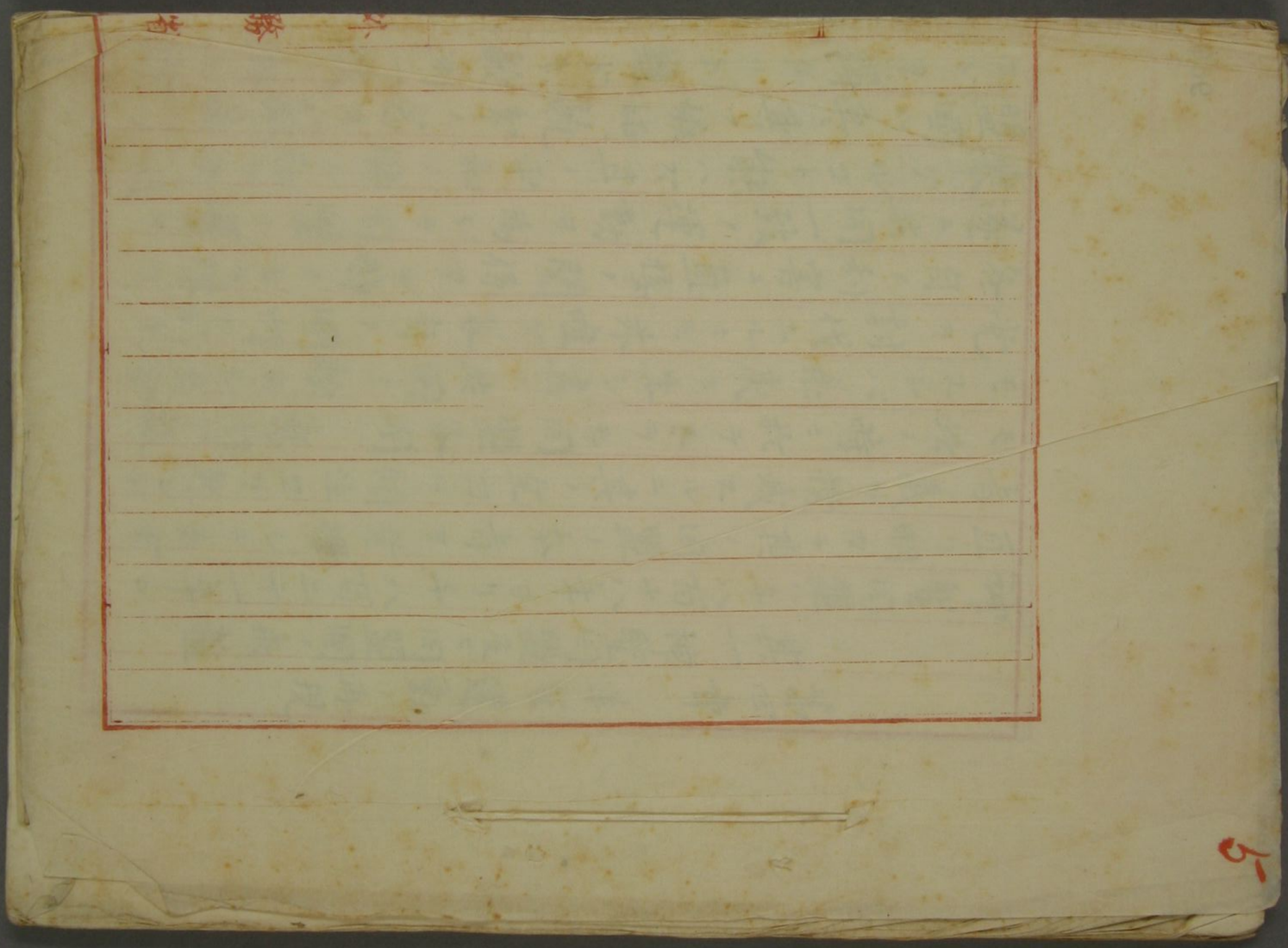

早稲田大学図書

114
A 900
4

第四章　革命運動ノ再現

其一　神聖同盟及ビ同盟國ノ乖離

神聖同盟ハ千八百十八年ヨリ千八百二十一年ニ亘リ明カニ其ノ同盟ノ本旨ヲ発揮シテ革命肯義ヲ撲滅スルニ其ノ全力ヲ傾注セリ然レドモ此ノ時ニ於テスラモ同盟各國ノ意向ハ輙モスレバ乖戻ヲ生シ其ノ共同ノ敵タル革命党ヲ討伐スルニモ亦唯ダ各自ノ國内ニ於テ各自ノ利害ニ直接ノ関係アル時ノミニ限リ遂ニ共同一致ノ運動ヲ為シテ同盟ノ實ヲ擧グルコト能ハズ其ノ平和ノ時ニ在リテハ同盟國ハ互ニ其ノ嫉妬、競争ノ念ヲ蔽匿スルコトヲ得タリト雖ドモ歐洲一般ニ漸ク騒

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

擾ノ端ヲ発シ同盟國ノ君主相俱ニ戮力協心ヲ要スルニ臨ミテ適々其ノ分裂ノ兆候ヲ示シ同盟國中最モ保守ノ精神ニ富ミテ最モ同盟ノ一致ニ洩ルヽコト能ハザリキ

其二 千八百十九年日耳曼ニ於ケル革命ノ運動

墺國政府ガ諸國民ノ独立心及ビ自由思想ノ発達ニ就キテ其ノ危害ヲ受ケムコトヲ憂懼セルハ到ル處皆然ラザルナキモ之ヲ禁壓スルニ最モ其ノ力ヲ用ヰルノ須要ナルヲ感シタルハ日耳曼ニ若クハナシ然レドモ墺國ハ常ニ日耳曼聯邦ヲ以テ殆ムド自國ノ屬邦ニ均シキ者ナリト思料シ之ニ對シテ独リ其ノ

権力ヲ振ハムト欲シ他ノ同盟諸國ト俱ニ革命党ノ鎮壓ニ従事シ以テ其ノ権力ヲ割キ其ノ利益ヲ分ツコトヲ好マズ蓋シ墺國ガ何事ニ限ラズ佛國ノ援ヲ仮ルコトヲ好マザルハ言ヲ俟タズシテ明カナル所ヽ露國ハ他ノ方面ニ於テ墺國ノ患ヲ為スコト漸ク其ノ深キヲ加フルノ類アリ故ニ墺國ハ同ヨリ露國ヲシテ日耳曼聯邦ノ事ニ干渉セシムルコトヲ好マズ英國ハ其ノ近親タル[illegible]ノーウルヲ扶ケテ漸ク其ノ勢力ヲ日耳曼ニ及ボシ將ニ以テ墺國ノ権力ヲ控制セムトスルノ虞アリ故ニ墺國ハ又英國ヲシテ日耳曼聯邦ノ事ニ容喙セシムルコトヲ好マズ況ムヤ普國ニ至リテハ其ノ勢力日々ニ盛ムニシテ常ニ墺國ト

俱ニ日耳曼ノ覇權ヲ爭ハムト欲スル者、墺國ガ之ト事ヲ俱ニスルヲ好マザルハ固ヨリ言ヲ須ヒスト雖ドモ而モ普國ヲシテ全ク日耳曼ノ事ニ干渉セシムルコト無カラシメムト欲スルハ到底得テ為スベキニアラズ他ナシ墺國、若シ普王ト俱ニ革命党ノ鎮壓ニ從事スルヲ拒ムトキハ普王ハ翻リテ革命党ヲ接ケテ其ノ驟乱ヲ煽動スルノ恐レアレバナリ メテルニッチハ夙トニ其ノ然ルヲ悟リ以為ラク普王ヲ外ニ排斥スルハ之ヲ内ニ拘束スルノ優レルニ若カズ此ノ如クナルトキハ一方ニハ墺國ハ普國ヲ其ノ配下ニ置キ他方ニハ之ヲシテ日耳曼國民ノ望ヲ失ハシメ墺國ハ之ニ由リテ二様ノ利益ヲ収ムルコトヲ得ベシト故ヲ以テメテルニッチハ千八百十八年前ヨリ務メテ普王フレデリック、キオームノ惟心ヲ求メ之ヲシテ墺帝フランツアト俱ニ其ノ力ヲ一ニシ以テ其ノ所謂ル民主的野蠻人ヲ排撃スルノ必要ヲ悟ラシムルニ百方其ノ力ヲ竭クシタリキ

普王フレデリック、ギーオームハ夙トニ專制肯義ノ學説ヲ崇尚シテ深ク其ノ骨髓ニ浸漸シタル者ナルガ故ニ容易クメテルニッチノ言フ所ヲ是トシ而シテ其ノ相ハルデルベルクモ亦メテルニッチノ説ク所トナリテ其ノ自由説ヲ翻ヘシ既ニ亡キ、ラ、シヤッペールノ列國會議ノ時ヨリ墺普二相ノ間ニハ日耳曼ニ於ケル革命運動ヲ排撃

スルノ方案ヲ協定セリ然レドモ普王ハ其ノ意
思反覆常ナクシテ久シク同一ノ意見ヲ守持
スルコト能ハズ千八百十九年ノ始メニ至リテ
再ヒ自由説ニ其ノ心ヲ傾ケ嘗テ千八百十五
年ヲ以テ約シタルガ如ク其ノ國民ニ憲法
ヲ賜與セムト欲シ一旦貶黜シタル和蘭ボルドノ
職ヲ復シテ告グルニ此ノ事ヲ以テシスヲイント
協議シテ新憲法ノ綱領ヲ定ムベキヲ策シタリ
憶フニ普王ノ此措置ニ出デタルハ亦必ズ其ノ
故ナクムバアラズ蓋當日再曼諸邦ノ君主
中其ノ自由肯義ヲ獻フハ敢テ普王ニ讓ル
所ナキモ而モ墺國若クハ普國ガ日耳曼ニ於テ
独リ其ノ權力ヲ專ラニスルニ至ラムコトヲ恐レ

其ノ臣民ニ議院政治ヲ與ヘテ以テ其ノ權力ヲ
収メムト欲スル者少シトセズ サックスウエーマル
大公ハ千八百十六年ヲ以テ他國ニ率先シテ憲法
制度ヲ其ノ國ニ行ヒ而シテ比隣ノ諸國亦往々
其ノ例ニ倣ヒバヴイエール王ハ是ヨリ先キ墺國
ノ甘言ニ欺カレテ其ノ領土ヲ增加スルノ望ヲ
抱キタルモ今ヤ其ノ望全ク絶エタルヲ以テ
務メテ民望ヲ収メテ普王ノ勢力ニ抗セム
ト欲シ千八百十八年五月以降新タニ憲法
ヲ制シテ其ノ國内ニ施行セリ而シテ其ノ新
憲法ハ固ヨリ稱シテ民主旨義ニ稱ヘル者
ト為スヘキニアラザルモ亦其ノ施行ハ革命
黨ノ為メニ一大勝利ヲ與ヘタルモノニアラズ

ト言フコトヲ得ズバード大公ハバヴイヱールノ為メニ其ノ封領ヲ併合セラレムコトヲ恐レ千八百十八年十月ヲ以テバヴイヱールノ憲法ニ比シテ一層自由ナル憲法ヲ其ノ國ニ発布シ之ニ接隣セルウユルテンベルグ王ハ是ヨリ先キ千八百十七年ヲ以テ一ノ憲法ノ制定シテ其ノ國ニ施行セムト欲シタルモ諸種ノ非難ニ遭フテ姑ク其ノ實行ヲ他日ニ譲レリ四隣ノ形勢此ノ如クナルヲ以テ若シ普王ノミ其ノ例ニ倣フコトヲ肯セザルトキハ普國ハ日耳曼國民ニ對シテ大ニ其ノ信用ヲ失フノ恐レナシトセズ是レ普王ガ其ノ國民ノ希望ヲ容レテ憲法ヲ施行セントセル所以ナリトス

メテルニツチハ普王ノ為ス所ヲ視テ大ニ驚キ乃チ之ニ告クルニ其ノ意思ノ柔弱ナルガ為メニ大事ヲ誤ルニ至ルベキヲ以テシ當時日耳曼ニ於テ擾乱ヲ事トスル者ハ初メヨリ聯合各邦ニ於テ立憲君主政ヲ設ケムト欲スルニアラズシテ悉ク各邦ノ君主ヲ廃シ悉ク其ノ政権ヲ覆ヘシ悉ク其ノ階級制度ヲ滅却シ日耳曼全土ヲ通シテ彼ノ慘劇ナル急激民主政ヲ行ハント欲スル者タルコトヲ以テセリ然ルニ是時ニ方リ日耳曼ノ南部ニ於テハ諸邦ノ臣民稍ク其ノ希望ヲ満足スルコトヲ得テ敢テ不穏ノ挙動ヲ事トスルコトアラザリシモ其ノ中部及ヒ北部ニ於テハ独裁專横封建ノ古制ヲ復立シテ今世ノ自由旨義ヲ蹂躙スルコトヲ惇カラザリシヲ以テ古来

ノ特権ニ由リテ殆ト完全ナル独立国体ヲナセル同地方ノ大學ハ主トシテ君主ニ對シテ反抗ノ氣燄ヲ鼓吹シ新聞雑誌ハ暗ニ二三小邦ノ援護ヲ得テ蓐ヲ共ニ日耳曼ノ民主的統一ヲ主張シ而シテ其ノ説ハ未ダ以テ一般人民ヲ動カスニ至ラザリシモ壯年學生ハ其ノ鼓舞スル所トナリテ其ノ熱心ノ熾ムナル殆ト狂スルガ如ク政治的結社ハ其ノ数日ニ多キヲ加ヘ而シテ其ノ間互ニ連絡ヲ通シ千八百十六年イエナニ於テ設立シタル一政社ハ千八百十八年ニ至リテ連合組織トナリテ諸邦ノ大學ニ在ル學生ハ緊ネ皆之ニ加入シ而シテ其會議ニ於テハ『其ノ目的ノ善良ナル者ハ其ノ手段ノ不良ナルヲ厭ハズ叛逆人又ハ暴虐ノ君主ニ對シテハ何カナル武器ヲ用ヰルモ決テ不可ナル所アルコトナリ驗乱一揆ハ勿論、暗殺ノ先行ト雖ドモ場合ニ依リテハ亦其ノ功ヲ稱セサルベカラズ』トノ説ヲスラ唱道スルモノアルニ至レリ

當ニ之ヲ口ニ唱道スルノミニアラズ當時專ラ獨裁説ヲ守持シテ世人ノ厭フ所トナレル著名ノ學者コッツビュー（コッツビヒイン）ハ千八百十九年三月二十三日マンハイムニ於テ學生カルヽザンナル者ノ刺殺スル所トナレリ是ニ於テ前ニメテルニッヒガ革命主義ノ悠毒ニ就キテ普ク告ケシ所ハ其ノ實ヲ得タルコトヲ證明シ普王ノ近臣ハ一人トシテ其ノ言ノ奏張ニ失スルヲ怪

ムルコトヲ敢テセザリキ

メテルニツチハ當時輿帝ニ從フテ伊太利ニ在リシガ此ノ暗殺ノ報ヲ聞テ始メハ大ニ愕キタルモ更ニ翻リテ是レ適々禍ヲ轉シテ福トナル所以ナリト為シ普王モ亦此ノ倦狀ヲ見テ革命ノ危險ナルヲ悟リ敢テ之ヲ不問ニ措クコト能ハザルベシトナシ千八百十九年四五六ノ三ケ月間ニメテルニツチノ發シタル書簡ハ一トシテ日耳曼ニ於ケル革命党ヲ鎮壓スルノ必要ヲ切言セザル者ナク日耳曼邦ノ君主中、サツクスウエーマル大公ノ如ク少シク改革党ニ聲援ヲ與フル者アルトキハ直チニ之ヲ目シテ革命旨義ヲ奉ズル者ナリトシテ痛々之ヲ排斥セリ以為ヘラク革命旨義ハ恰モ疽毒ノ如シ宜シク速カニ焙鐵ヲ用ヒテ之ヲ燒棄セザルベカラズトメテルニツチノ革命旨義ヲ忌ムハ此ノ如ク太甚シト雖ドモ其ノ幕僚セツツハ更ニ之ヨリモ甚シク當時ゼツツニ至リテハ維納ニ止マリテ親シク実際ノ景況ヲ目擊シテ憂懼措クコト能ハズ屢々書ヲメテルニツチニ送リテ速カニ嚴勵ナル措置ヲ施サムコトヲ勸告シ若シ後慢ニ付スルトキハ唯ダニ人ノ日耳曼ノ平和ヲ害スルノミナラズ施キテ歐洲全土ノ平和ヲ害スルニ至ルベシトナセリ要スルニメテルニツチノ革命旨義排擊ノ方略ハ其ノ實一ニゼツツノ畫措ニ出シモノニシテメテルニツチ唯ダゼツツ言フ所ヲ聽キテ之ヲ實行

シ後ニ至リテ之ヲ已レノ功ニ帰シタルニ過ギズ

其三 テプリツツ及ビカルスバッド

メテルニッチハ始メ日耳曼ノ聯邦議會ヲシテ革命党鎮壓ノ處分案ヲ議定セシメムト欲シタルモゼンツハ聯邦議會ノ常ニ協同一致ヲ欠キテ其ノ勢力極メテ微弱ナルガ為メ其ノ議事緩慢ニ渉リテ時機ヲ失スルニ至ルベシト思料シ聯邦議會ノ議決ヲ待タズシテ先ツ其ノ施スベキ方案ヲ一定シ然ル後チ議會ニ迫リテ其ノ定ムル所ヲ議決シテ之ヲ其ノ議事録ニ掲ケシムルニ若カズト論シ先ツ普国ヲ招キテ之ト倶ニ密カニ因議ヲ尽クシ其ノ因議既ニ熟シタル後チ更ニ墺普ノ二國ヨリ日耳曼聯邦ニ加盟セル自餘ノ諸邦ニ通牒シテ形式的ニ會議ヲ開キ墺普二国ガ豫シメ因定シタル所ニ從フテ相倶ニ革命党ノ鎮壓ニ関スル新法令ヲ設クルヲ須要ナリトナセリ且ツ其ノ會議ヲ開クベキハ前後二回シテ其ノ第一回ハカルスバッドニ於テシ第二回ハ維納ニ於テシ而シテ其ノカルスバッドニ於テスル者ハ最モ急速ヲ要シ其ノ會議ニ與カルベキ者ハ單ニ墺普ノ二國及ビ四五ノ二等国ニ限ラ面ノアタリ其ノ陸梁ヲ恣マニセル日耳曼ノ革命党ヲ鎮壓スルカ為メ即時ニ施行スベキ方案ヲ議定スベキモノトシ其ノ維納ニ於テスルモノハ聯邦ニ加盟セル大小ノ諸国皆其ノ全権委員ヲ會議ニ派遣シ千八百十五年ノ聯邦條約

ニ就キテ其ノ足ラサル處ヲ補ヒ其ノ實行ニ便ナラザル所ヲ改正スベキ根本法律ヲ制定スルヲ主旨トスルモノトス

メテルニッチハゼンツノ意見ヲ採納シ其伊太利ヨリ還レル後チ急ニボヒミヤニ赴キ普國王モ亦七月下旬往キテ之トテプリツツニ會見セリ是ヨリ先キ普王ハコッビユーノ刺殺ニ遭ヘルノ報ヲ聞キシノチモ猶ホメテルニッチノ勸告ニ應シテ之ト俱ニ革命党ノ鎮壓ニ從事スルヲ躊躇スルノ趣キアリシカ其ノ後チニ至リテ更ニ亦ナッソノ撫政長イベールガ革命党ノ為メニ刺殺セラルヽアリ而シテ之ト同時ニ日耳曼各地ニ於テ多數ノ暴徒群聚シテ不穏ノ擧動ヲ為シ就中ヘッスダルムダル

ド大公國最モ其甚シク普國政府ハ既ニ革命党ノ新聞紙ヲ禁止シ其ノ大學教師ヲ罷免シ大學及ヒ諸結社ニ苛嚴ナル監督ヲ加ヘリト雖ドモ猶ホ未タ革命党ノ跳梁ヲ制スルニ足ラサリシカバ普王ハ遂ニ墺國ノ政策ニ賛同シテ自ラ其ノ自由ノ運動拘束スルノ已ムコトヲ得ザルヲ覺悟スルニ至レリ且ツメテルニッチハ普王ニ告クルニ王若シ墺帝ノ政策賛同スルヲ肯ムヤザルトキハ墺帝ハ日耳曼聯盟ノ同盟ヲ離レテ別ニ自ラ為スヘキアルベキヲ以テセリ其ノ言ニ云ク「普國政府若シ能ク其ノ政府タルノ本分ヲ尽スコトヲ欲セスムバ願クハ明カニ之ヲ告白セヨ普國ハ自ラ亡滅ヲ招クヲ厭ハストスルモ墺國ト俱ニ亡フルコト能

ハズ故ニ此ノ場合ニ於テハ墺國ハ退キテ專ラ自
國ノ安全ヲ計リ從フテ全ク其ノ從来ノ方針ヲ一
變セザルベカラズ『ト蓋シメテルニッチガ普王ニ向
フテ此ノ言ヲ為セシハ明カニ墺帝ノ許容ニ出テタ
ルモノニシテ是ヨリ先キ墺帝ハ書ヲメテルニッチニ
送リテ云ク『吾等若シ普王ト相合スルコト能ハズム
バ寧ロ之ト相離ルヽニ若カズ此ノ時ニ於テハ我ガ
國ハ專ラ其ノ臣民ノ福利ヲ全クスルカ為メニ
隨意ニ適當ノ措置ヲ施コスコトヲ得ベシ卿
其レ此ノ意ヲ領シテ必要ノ場合ニハ普王ニ告グ
ルニ此言ヲ以テセヨ』
此ノ脅迫的言辭ガ果シテ墺國政府ノ信意ヲ
リ出デタルヤ否ヤハ余輩ノ知ル所ニアラズト雖

ドモメテルニッチノ方略ハ果シテ大ニ其ノ功ヲ
奏シ普王ハ深ク革命運動ニ恐怖ヲ抱キ自
國ノ独力ヲ以テ日耳曼全土ニ於ケル革命党ヲ
鎮壓スルニ足ラザルヲ思ヒ將来ノ得失利害
ヲ熟ルニ遑マアラズシテメテルニッチノ言所ニ
從ヒ遂ニ手ヲ束ネテ永ク墺王ノ拘制ヲ受ク
ルニ至レリ
メテルニッチハ普王ト會談スルコト三日間（七
月廿九日ヨリ八月一日ニ至ル）ニシテ普王ヲシテ悉
ク其ノ政策ニ同意セシメ普王ハ唯ダニ自己
ニ於テ代議制ヲ布クノ考案ヲ中止セシノミナ
ラズ更ニ墺王ト倶ニ日耳曼諸邦ニ於テ代議
制ヲ廢スルニ其力ヲ盡クスベキ誓約ヲ

以テゼンツノ案出セシ嬉劇ハ爰ニ始メテ其
ノ幕ヲ開キタリ
嬉劇ノ第一齣ハ首尾能ク之ヲ演ズシハ月
七日ヨリカルスバッドノ會議ヲ開キ墺普二
國ノ外、索遜、バノーヴル、バヴイエール、バード、ナッ
ソー、ウエルテンベルグ、ネヤレンブールグ、ヘッス、エレ
クトラール、及ビサックス、ウエーマルノ十國之ニ參
列シ八月五日其ノ會ヲ終リ而シテ其ノ會議
ハ終始秘密ヲ旨トシ其ノ議定書モ亦之ヲ
世ニ公ニセサリシヲ以テ會議中何カナル討議
ヲ為シ何カナル紛爭ヲ生シタリシヤハ人得
テ之ヲ知ラスト雖ドモ其ノ決議ノ要旨ハ
曩キニ墺普二國ノ間ニ協定セシモノト殆ムド

異ナルコトナクメテルニッチハ其ノ決議ニ本キテ
長文ノ報告書ヲフランクフオルトノ聯邦議會ニ
送リ而シテ聯邦議會ノ議員ハ各ニ其ノ政
府ノ命令ニ由リ九月二十日之ヲ議決シテ聯邦
法律トナセリ
其ノ法律ノ第一ハ聯邦議會ノ定メタル鎮壓法
ヲ施行スベキ假規則ヲ設クルニ在リ之レガ為メ
議會中ヨリ五名ノ委員ヲ選定シ其任期ハ六月
間トナシ委員ニ權ヲ以テシ必要ノ場合ニハ兵
力ヲ用ヒテ法律ヲ實行スルコトヲ得ベシトナセ
リ第二ハ自今大學ハ其ノ國ノ君主ヨリ任命シタ
ル學監ノ監督ヲ受クベキモノトシ學監教育
ノ精神ヲ監督シ教師及ヒ生徒ヲ罷免シ放

逐シ若シハ捕ヘテ之ヲ獄ニ投スルコトヲ得ベキモノトシ日耳曼聯邦ノ諸政府ハ相約シテ學監ヲ危険ノ虞アルヲ指摘シタル教師若シハ學生ヲ放逐シ而シテ其ノ既ニ一ノ學校ヨリ放逐セラレタル者ハ毎ニ他ノ學校ニ入ルコトヲ許サストナシ凡ソ公認ヲ得ザル秘密ノ結社ハ皆之ヲ解散スヘキ者トシ其ノ結社ニ加入シタルノ証跡アル者ハ都テ官職ニ任用スルコトヲ得ベカラズトナセリ第三ノ法律ハ出板ニ関スル事項ヲ規定シ今後五ヶ年以内ニ確定ノ法律ヲ制定スルニ至ルマデ定期刊行物及ビ二十枚以下ノ利行物ハ其ノ発行前ニ預メ検閲ヲ行ヒ其ノ他ノ出板物ニ就キテハ諸國各〻適宜ノ

法律ヲ設ケテ嚴ニ之カ取締ヲ為シ聯邦中ノ一國ハ他ノ一國ノ請求ニ由リ其ノ領内ニ於テ出板シタル書冊ノ著作者ヲ法ニ照ラシテ處分セザルベカラズ若シ之ヲ拒ムモノアルトキハ聯邦會議ハ聯邦全体ノ名義ヲ以テ是非ノ裁決ヲ下スベキモノトス且ツ聯邦議會ハ自己ノ発意ヲ以テ新聞紙ノ犯罪ヲ裁判シ若シハ其ノ発行ヲ禁止スルコトヲ得ベク而シテ其ノ新聞紙ヲ禁止セラレタル記者ハ五年ノ間他ノ新聞紙ノ編輯ニ從事スルヲ許サズ又其ノ犯罪ノ責任ハ独リ其ノ編輯長ニ止マラズシテ発行人及ヒ印刷人モ亦其ノ責ヲ分ケザルベカラス

以上ハ專ラ將来ノ事ヲ規定シタルモノナリ若シ夫レ既往ノ事ニ至リテハ聯邦議會ニ於テ七名ノ委員ヨリ成レル一ノ調査會ヲ設ケ君主ノ安寧ヲ妨害スベキ革命運動ノ事實、原因、餘波ヲ按検スルノ任ニ膺リ而シテ聯合各邦ハ會ノ調査ヲ容易ナラシムルガ為メ出来ル限リノ便宜ヲ與ヘ地方官ハ皆其ノ指揮ヲ奉シ凡ソ其ノ視テ疑ヲ容ルベシト為ス者ハ直チニ其ノ逮捕ヲ命スルコトヲ得ベク若シ或ハ其ノ命令ヲ拒ム者アルトキハ委員ハ其ノ旨ヲ聯邦議會ニ訴フベシト為セリ

其四　維納會議及ビ千八百二十年ノ條約

右ノ決議ハ即時ニ之ヲ實際ニ施行シ日耳曼國民ヲシテ多年其ノ峻厳厲刻ナルニ震慄セシメタリキ然レ𪜈墺普二國ハ之ニ由リテ唯ダ目前ノ危急ニ應セント欲スルニ過キズ故ニ二國ハ更ニ將来ニ於テ永ク日耳曼ノ平和ヲ保持スルカ為メ千八百十五年ノ聯邦條約ニ本キテ永久ニ彌ルベキ法律ヲ制定セムコトヲ計レリ蓋シ千八百十五年ノ聯邦条約ハ既ニ前章ニ述ベタリシ如ク其ノ實聯邦ノ組織ヲ固定シテ之ニ與フル統一的ノ政權ヲ以テシタルモノニアラズ而シテ其ノ然ル所以ハ當時普國ガ聯邦内ニ於テ独リ其ノ權力ヲ專ラニセムトスルノ勢アリシヲ以テ之ヲ防止スルガ為メニ故ラニ其ノ聯邦ノ

組織ヲ薄弱ナラシメタルニ外ナラス然ルニ今ヤ
普國政府ハ墺國ノ威嚇スル所トナリテ事ゴトニ
其ノ言フ所ニ服從スルニ至リタルヲ以テ墺國
政府ハ聯邦議會ノ權力ヲ強固ナラシメ之ニ與
フルニ立法行法ノ二權ヲ以テシ由リテ以テ其ノ
意ノ欲スルガマヽニ日耳曼諸邦ニ號令シ又
且ツ聯邦内ノ二三ノ君主ガ其ノ國内ニ於テ設ケ
タル憲法政治ヲ廢止シ若クハ之ヲ變更シテ
務メテ君主ノ專制權ヲ張ルノ用ニ供セムコトヲ
計レリ要スルニ往キニカルニスバワドノ議決ハ專
ラ暴激ノ革命ヲ制止スルヲ旨トシタルヲ以テ
メテルニッチハ更ニ維納會議ニ由リテ合法ノ
革命ヲ豫防スルノ結果ヲ得ンコトヲ期セリ

然レドモ嬉劇ノ第二齣ハ墺相ヲシテ其ノ第
一齣ニ均シキ滿足ヲ得セシムルコト能ハザリキ
蓋シ日耳曼聯邦中ノ二大強タル墺普ノ二國ハ
今ヤ相合シテ自餘ノ諸小邦ヲ壓抑スルコトヲ得
タリト雖ドモ其ノ始メ相離レタル小諸邦
モ亦漸ク相告ビテ其ノ壓抑ニ抗セントスル
亦且ツ諸外國ニ向フテ其ノ援ヲ得ムコトヲ乞
ヒシニ當時諸外國中ニハ敢テ意ヲ決シテ其
ノ乞ニ應スル者アラザリシモ其ノ疆土ニ於テ
モ亦其ノ政治ニ於テモ全ク日耳曼ト渾化スル
コト能ハザル墺普ノ二國ガ專ラ自國ノ利益
ノ爲メニ日耳曼聯邦ノ勢力ヲ使用スルハ歐洲
列國ノ皆均シク憂慮スル所ニシテ二國ガ日耳曼

ニ於テ其ノ権力ヲ失フハ諸外國ノ心窃ニ希望ス
ル所ニアラズトセズ事情此ノ如クナルヲ以テ墺
普ノ兩政府ハ千八百十九年十月新タニ會議
ヲ開クニ際シテ列國政府ニ書簡ヲ送リテ唯
ダ能ク列國ノ平和ヲ維持シ千八百十五年ノ
條約ニ由リテ定メタル事態ヲ維持スルノ外敢
テ他意ヲ存セサル旨ヲ宣言セリ
英佛ノ二國ハ其内心ノ如何ニ係ラズ右ノ宣言ニ對シ
テハ敢テ一言タモ之ヲ爭フコトアラザリキ独リ
露國ハ之ニ反シテ同年ノ末ニ至リテ墺國ニ
向ヒ明カニ敵意ヲ表シ露帝ハ其ノ年ノ十月ソ
ノ義弟タルウユルテンベルグ王トヴルツヴイー
ニ會見セリ蓋シウユルテンベルグ王ハ是ヨリ先

キ九月二十六日ヲ以テ嘗テ其ノ臣民ニ約シタル
憲法ヲ発布シ然ル后チ露帝ノ常ニ愛重スル
自由旨義君主制及ビ神聖同盟ノ名義ヲ以テ
墺普ノ二國ニ對シテ露帝ノ援ヲ得ムト欲シテ来
リタル者ナリ抑モ露帝ノ神聖同盟ヲ見ルハ外
テルニツチト大ニ其ノ趣ヲ異ニシ凡ソ同盟ニ加入シ
タル君主ハ歐洲ノ各地ニ起リタル政治上ノ困難
ニ就キテ皆均シク利害ノ関係ヲ有シ敢テ其
ノ間ニ厚薄アラズトナシ數國ノ間ニ起リタル
紛議ハ必ス同盟國共同ノ干渉ニ由ルニアラズ
ムバ其ノ紛議ノ局ヲ收ムル可ラズトナシ且ツ臣
民ガ君主ニ對シテ叛乱ヲ起スハ其ノ罪固
ヨリ許スベカラスト雖ドモ君主自ラ好ミテ

臣民ニ其ノ権利ヲ譲與スルハ宜シク正當犯カ
スベカラザル者ト視做サヽルベカラズトナセリ
故ニ アレキサンドル八日耳曼聯邦中ノ二等国
カ墺普二國ノ脅カス所トナリテ其ノ救援ヲ求ム
ルニ會シ肯テ其ノ乞ヲ拒ムコトナクシテ二國ノ
專横ヲ抑ヘムト欲シ已ムナクムハ之レガ為メ
ニ兵力ニ訴フルモ猶ホ且ツ辞セザル決心ヲ有
シタリキ
千八百十九年ノ終末ニ際シ露國ノ軍兵ハ夥
シク波蘭土ニ屯集シ露帝ノ意ハ既ニ已ニ開
戰ニ決シタルノ状アルヲ以テ墺國政府ハ務メ
テ温言ヲ粧フテ其ノ出兵ノ理由ニ就キ説明ヲ
得ムコトヲ求メタルニ露帝ハ猶ホ墺帝ヲ呼ヒ
テ誠實ナル同盟ト終始之ニ信義ヲ尽クシテ敢
テ或ハ渝ハルコトナカルベキヲ答ヘタルモ肯テ
其ノ戰備ヲ撤スルノ色アラザリキ憶フニ露
帝ハ信ニ墺國ニ向フテ戰ヲ開クニ意アリシカ將
タ當時東歐ノ事態漸ク危急ニ迫ルノ勢アルヲ
以テ其ノ兵力ヲ之ニ用ヒムト欲シタルカ蓋シコノ
二者ハ均シク露帝ノ企圖シタル所タリシナラム
而シテ帝ハ其ノ企圖ヲ實行スルノ機會ヲ待チ
ツヽ其ノ年ノ十二月子ツセルロードヨリ書簡ヲ南部
日耳曼ノ諸邦ニ送リテ墺普二國ノ意見ニ
反對スベキヲ勸誘シ之ニ加フルニ帝ハ翌千
八百二十年英國政府ニ通牒シテ メテルニッチ
ノ政策ニ由リテ將ニ其ノ独立ヲ失ハムトスル

諸君主ノ為メニ相俱ニ干渉ヲ行ハレコトヲ求メリ是ニ於テウエルテンベルク王ハ露帝ノ援助アルヲ恃ミテ唯ダニ維納會議ニ於テ極力墺普二國ノ提議ニ抗爭スルノミナラズ其ノ年ノ三月ニ至リ會議ノ決議ヲ更ニ聯邦議會ニ附シ各員自由ノ意思ヲ以テ充分ノ討議ヲ尽クスベキヲ主張シ且ツ此ノ措置タル歐洲各國ガ皆均シク參同シタル前回ノ維納會議ノ決議ニ牽聯スル者ナルカ故ニ亦均シク歐洲列國ノ審査ニ付シテ其ノ義認ヲ得ザルベカラストナセリ

人若シ當時ニ於ケルメテルニッチノ報告ヲ視ルトキハ彼レガ維納會議中ニ何カニ其ノ困難ニ遭遇セシノ大ナリシカヲ知ルコトヲ得ム蓋シ

メテルニッチハ其ノ人ト為リ浮夸ヲ衒ヒ虚榮ヲ喜ヒ常ニ偽言ヲ攝ヘテ當世ヲ欺クノミナラズ亦往々事實ヲ掩フテ後世ヲ滿着セムコトヲ計リ其ノ結果ノ景モ不滿足ナル者ハ故ラニ景モ滿足ナリト稱シ其ノ意見ノ景モ反抗ヲ受ケ其ノ政策ノ景モ攻擊ヲ被ムレル者ハ故ラニ其ノ成功ノ大ナルヲ揚言スルヲ常トセリ故ニ余輩ハ敢テ其ノ報告中ニ載セタル虚飾ノ言ニ留意スルコトナクシテ專ラ事實ノ真相ヲ究明セムニ彼レノ方按ハカル、スバッド會議ニ於テ殆ムト全ク行ハル、コトヲ得タリシモ維納會議ニ至リテハ之ト大ニ其ノ趣キヲ異ニセリ蓋シ維納會議ハ前ニモ述ヘタリシ如ク墺普二國ノ全權ト其ノ他ノ

日耳曼諸邦ノ全權トノ間ニ協議ヲ尽クスコトヲ
主トスル者ニシテ千八百十九年十月二十五日其ノ會
ヲ開キ翌千八百二十年五月十五日ニ至ルテ之ヲ終レ
リ而シテ其ノ協定セシ議定書ハ遂ニ以テ〆テル云
チノ希望セシ所ニ副フコト能ハザリキ勿論英
國政府ハ常ニ露帝ト相善カラズシテ事ゴトニ
其ノ意見ニ從フコトヲ好マザルヲ以テ今回モ
亦其ノ勸誘ニ應シテ日耳曼ノ事ニ干渉スルヲ
肯ムセズ且ツ當時英國ニ於テモ亦民主党ノ勃
興スルアリテ英國政府ハ日耳曼ニ於ケル立憲肯
義ノ進歩ニ就キテ敢テ同情ヲ表スルコトアラザ
リシモ而モ露墺雄ヲ構フルハ事端ヲ東歐ニ
開ク所以ニシテ是レ其ノ最モ恐ル、所ナルヲ

以テ英國政府ハ窃カニ〆テルニツチニ說クニ宜シ
ク露國ニ對シテ大ニ讓歩ヲ為スベキヲ以テシ加
フルニウエルテンベルグ及ビ之ニ党スル諸政府ヲシテ
會議ノ決議ヲ再ヒ聯邦議會ノ議事ニ付シ及ビ
歐洲列國ノ義認ヲ求ムルノ提議ヲ撤回セシム
ルノ必要ニ迫ラレ〆テルニツチハ意ニ大ニ讓歩ヲ
為スノ已ムコトヲ得ザルニ至レリ事態此ノ如ク
ナリシヲ以テ五月十五日ノ議定書ハ其ノ後千六
月八日ニ至リ更ニ之ヲ日耳曼聯邦ノ根本法律
トナセリト雖ドモ其ノ實ハ前キニ千八百十五
年ヲ以テ聯邦君主ノ協定シタル極メテ模稜ニ
シテ極メテ散漫ナル聯邦組織ノ憲法ニ更ニ足
ヲ添ヘタル者ニ外ナラズ但シ其ノ議定中ニ

ハ凡ソ聯合各邦ノ憲法ハ決シテ聯邦條約ノ
趣旨ニ違反スベカラズ各邦ノ統治權ハ常ニ
其ノ君主ノ身ニ附着シタル者ニシテ決シテ之ニ
侵害ヲ加フベカラズトノ條文ナキニアラザルモ若
シ其ノ君主ニシテ自ラ其治權ヲ國民ニ分タム
ト欲スルトキハ人得テ之ヲ妨クルコトヲ得ベキ
ニアラズ且ツ議定書ハ其ノ既ニ存立セル憲法
ハ之ヲ維持而シテ之ヲ改正スルニハ必ス合法ノ手
續ニ據ラザルベカラズト為セリ然ルニ聯邦ノ
根本法律ニ定ムル所ト相容ルヽコト能ハサル
者極メテ多シ知ルベシ聯邦ノ根本法律カ聯合
各邦ノ憲法ニ對シテ殆ムト全ク其ノ効力ヲ有
セサル者タルコトヲ勿論議定書ニハ聯邦全

当時聯合各邦ニ存立ス憲法

体ト聯合各邦トノ權限爭議ニ關スル規定
ヲ掲ケザルニアラズ然レドモ其ノ爭議ヲ裁決
スルカ為メニ聯邦裁判所ノ設立アルアラズ唯
タ其ノ爭議ノ生スルゴトニ極メテ複雜ニシテ極メ
テ緩慢ナル手續ヲ用ヒテ之ヲ裁決スルモノニ
シテ其ノ制裁ハ殆ムド一モ効力ヲ有スルコトナ
シ又聯合各邦ハ戰爭ノ時ニ際シテ聯邦ノ敵国
ニ金スルコトヲ許サズト雖ドモ輿国若クハ普
国ガ私ニ他国ト雖ヲ搆フルニ際シ聯邦内ノ他ノ
諸邦国ハ必スシモ其ノ意ニ反シテ之ヲ援クルノ
義務ヲ有スルコトナク聯邦議會ハ聯邦ノ
主權ヲ有セリト雖ドモ聯邦内ノ二等国ハ凡ソ
聯邦全体ノ利害ニ關スル重要ノ措置ヲ施

スニハ必ズ全會一致ノ議決ヲ要ストノ條文
ニ因據シ議會ヲシテ無為無能ノモノタラシ
ムルコトヲ得ベシト右ノ如クナルヲ以テ千八百二十
年ノ勝約條約モ亦千八百十五年ノ連約條
約ト均シク日耳曼ニ與フルニ輩固ナル統治權
ヲ以テシ之ヲシテ組織アリ統一アル真個ノ一
國民タラシムルコト能ハサリキ蓋シ墺國ハ
千八百十五年ニ於テ故ラニ日耳曼國民ノ
進行ヲ阻碍シタルヲ以テ爰ニ至リテ更ニ之
ヲ動カシテ前ニ進ミシムルコト能ハズ又之ヲ
後ニ退カシムルコト能ハズ而シテ爾来半世
紀ノ間日耳曼ハ常ニ同一ノ狀態ヲ存シテ變
スルコトナク其ノ後チニ至リテ茲ニ之ニ變

更ヲ與ヘタル者モ亦墺國政府ニアラザリキ

其五　佛國ニ於ケル自由肯義ドカーズ及ヒリシユリユー

露國ハ日耳曼ニ於テ墺國ノ政策ニ妨害ヲ加ヘ
之ヲシテ其ノ志ヲ遂シクセシメザルコトヲ得タ
リト雖ドモ露國ノ政策モ亦自餘ノ諸國統中
其ノ事肯義ヲ撲滅スルニ露帝ノ心ヲ
用ヒタル佛國ニ於テ障碍ニ遭フヲ免ルヽコト能
ハズシテ全國ニ於ケル自由肯義ノ進歩ハ痛ク
露帝ノ心ヲ煩ハシ加フルニ其ノ最モ親信スルリシ
ユリユー公ハ千八百十八年十二月ヲ以テ内閣ヲ去リ
シ為メ露帝ハ復タ佛國政府ニ對シテ其ノ勢
力ヲ及ボスコト能ハザルニ至レリ是レヨリ先キリ

シユリユー公ハ エキスラウシヤワペール會議ヨリ帰
レル後チ露帝ヲ始メ同盟国ノ君主ト内約シタル
所ニ從ヒ千八百十七年ノ選擧法ヲ改正シテ自由
青義ヲ抑ハムト欲シ之ヲ十八世ルイーニ奏請セ
シモ遂ニ其ノ聽ク所トナラス蓋シ十八世ルイーハ
常ニ露帝ト相親ムコトヲ好マズシテ外国ノ軍兵
既ニ佛国内ノ占領ヲ撤去シタル后チハ復タ其ノ
保護ヲ受クルコトヲ要セズト為シ露帝ノ庇蔭
ニ由リテ其ノ内閣ヲ総理セルリシユリユー公ヲ疎
シテ專ラ其ノ歇手タルドカーズ伯ヲ寵信シ
而シテドカーズ伯常ニリシユリユー公ノ權勢ヲ嫉
ミ機ニ乘シテ取リテ之ニ代ラムト欲シリシユリ
ユー公ガ專ラ露帝ノ政策ニ與シテ守舊党

ニ對スルノ措置昔日ノ如ク厳励ナラザルヲ擧
ケテ之ヲ王ニ譖セシガ為メリシユリユー公ノ辞職
ヲ乞フヤ王ハ即時ニ之ヲ聽許シテ更ニ新内閣ヲ
組織ヲ命シタリ而シテ其ノ新内閣ニ長タル者ハ
其名ハ將軍デツツールナリシモ其ノ実ハ則チド
カーズ伯ニ外ナラズ然ルニ伯ハ曩キニリシユリユー
公ガ專ラ非革命党ニ向テ攻撃セシノ
故ニ由リ其ノ勢ヒ良ヨリ自由党ヲ延キテ其ノ
援トナサヾルベカラズ故ニ其ノ政權ヲ得ルヤ唯
ダニ現行ノ選擧法ヲ變更セザルノミナラズ更
ニ新法律ヲ制定シテ出板ノ自由ヲ保護シ青
テ帝國政府若クハ共和政府ニ仕ヘタル人物
ヲ擧ケテ之ヲ行政各部ニ任用セリ佛国政

府内ニ此ノ如キ變動ヲ生シタルハ露帝ノ喜コ
フ所タラザルコト良ヨリ言ヲ待タズト雖ドモ
更ニ大ニ露帝ノ怒ヲ招キタルハ佛國新内閣ガ露
國累世ノ敵タルハ英國ニ對シテ深ク好意ヲ表シ
タルニ在リ是ヨリ先キ内閣ハ專ラ
露國改府ノ後援ニ依頼セシモドカーズ内閣ハ
主トシテ英國ノ保護ヲ得ムコトヲ求メ從來露
國大使ボルゾーハ事ゴトニ佛國改府ノ
諮問ヲ受ケ其ノ言フ所ハ殆ムト聽從セラレザ
ル者ナカリシモ今ヤ英國大使ハ之ニ代リテ頻ニ
其ノ勢力ヲ佛國改府内ニ占メシテ事ゴトニ其
ノ諮詢ヲ受クルニ至リ故ニ露帝ハ千八百十九
年ノ始メヨリ佛國改府ニ對シテ屢ニ不平ヲ
洩ラシタルモ十八年ルイーハ敢テ之ニ耳ヲ傾クル
コトナク同年八月露相カポーチストリア亦巴里
ニ來リテ滞留數週間ニ亘リルイーヲシテドカ
ーズ伯ヲ黜ケシムルニ百方其ノ力ヲ盡シタル
モ遂ニ其ノ功ヲ奏スルコト能ハズ既ニシテ議
會ノ改選ニ際シテ自由党ハ更ニ大ニ其ノ議員
ノ數ヲ增加シ代議院ニ於テ既ニ九十余名ノ議員
ヲ有シ就中往日ノ國約議會ノ議員グレゴアール
モ亦其ノ選ニ當リ急激王党及ビ神聖同盟ヲ
シテ驚愕惜措ク能ハサラシメ自由青義ヲ敵視
スルノ徒ハ孰レモ佛國カ千七百九十三年ノ惨
劇ヲ再演スルコト近キニ在ルヘシトナシテ痛ク
之ニ攻撃ヲ加ヘタルモドカーズ伯ハ之カ為メ

ニ其ノ政権ヲ失ハザルヿナラズ其ノ後チ日ナ
ラズシテ（千八百十九年十一月）遂ニ自ラ内閣ノ
首長ニ任シ千八百十五年及ヒ千八百十六年ニ
彌リテ放逐ニ遭ヘルモノハ大抵帰国ノ許可ヲ
受ケ中ニ即チ元老議員ニ任用セラルヽモノモ
亦甚タ少ナキニアラザリキ
是ニ至リテ露帝ハ遂ニ堪フルコト能ハズ十八世
ルイ一ガ其ノ勧告ニ應スルノ色ナキヲ視テ更
ニ之ヲ脅迫シテ其ノ意ニ従ハシメムト欲シ千
八百十五年十一月二十日ノ四国同盟ニ加入シタル
君主ニ通牒シテ相倶ニ佛国ニ迫リ佛王ヲ
シテ其ノ政策ヲ一変セシメムコトヲ謀リ
憶フニ当時露帝ハ果シテ之カ為ナニ戦ヲ

開クモ辞セザルノ決心アリシヤ否ヤ是レ余輩
ノ得テ知ル所ニアラズ仮令ヒ其ノ志ハ單ニ虚勢
ヲ張リテ佛国政府ヲ威嚇スルニ外ナラザリト
スルモ其ノ発議ハ到底諸大国ニ容レラル
ベキ者ニアラズ英国ハ国ヨリドカーズ内閣
ノ傾西復ヲ喜ハザルヲ以テ漸ヤトシテ露
帝ノ意見ニ従フコトヲ拒ミ唯ダドカーズ内閣
ニ向フテ保守党ニ多少ノ譲歩ヲナス人ノ得策
タルヲ勧告シタルノミ墺国ハ国ヨリ佛国ニ於
ケル自由青義ノ進歩ヲ憂惧シ守舊党ノ勢
力ヲ得ムコトヲ希望セザルニアラズト雖ドモ
當時（千八百二十年一月）墺国ハ就中最モ英国
ノ援ヲ求ムルノ必要ヲ有シテ之ト相離ルコト

コトヲ好マズ又ドカーズ内閣ヲ仆カシテ代フルニ
リシユリユー内閣ヲ以テシ露帝ヲシテ独リ其ノ
利益ヲ得セシムルヲ欲セズ普国政府ニ乗テ
ハ當時専ラ墺国ト進退ヲ倶ニスル者ニシテ墺
国ノ意思ハ又普国ノ意思ニ外ナラス三国ノ意
向恢ノ如クナリシヲ以テ露国ノ提議ハ遂ニ其ノ
実行ヲ見ルコト能ハザリキ然レドモ此間更ニ
不意ノ事変アリシガ為メ露帝ハ佛国政府ニ
對シテ其ノ一タヒ失ヘル地歩ヲ幾分カ恢復スル
コトヲ得タリ千八百二十年二月十三日ベルリー公
刺客ノ殺ス所トナリシヨリ急激ヨ党及ヒ王
族ノ多数ハ皆其ノ罪ヲドカーズノ失政ニ帰シ
テ痛ク之ヲ攻撃シ而シテ当時十八世ルイー

ハ年老ヒテ病ニ罹リ遂ニ衆議ニ抗シテ其ノ寵
信スルドカーズヲシテ永ク内閣ヲ統ベシムルコト
能ハズ然レドモ アルトアー伯及ヒ之ニ党スル守旧
家ヲシテ其ノ勢力ヲ恣マヽニセシムルハ亦タ
ノ欲スル所ニアラズ乃チリシユリユー公ガ人ト
ナリ寛厚温和ニシテ其ノ能ク右党ノ跋扈
ヲ制スルト同時ニ亦能ク左党ノ反抗ヲ抑フ
ルニ足ルベキヲ思ヒ更ニ之ヲ擧ゲテドカーズ
伯ニ代ラシメタリリシユリユー公ハ再ヒ内閣ヲ統
フルニ及ヒテ其ノ先伯ニ達ハズシテ選擧法ヲ
改正シ且ツ務メテ露佛二国ノ交情ヲ親密ナラシ
メムコトヲ計リシヲ以テ露帝ハ之ニ對シテ大ニ
満足ヲ表シタルモ英国ハ公ノ再ビ政権ヲ操ルヲ

喜ハズシテ務メテ其改策ヲ妨害シ其ノ信用
ヲ失墜セシメムト欲シ墺国ニ至リテハ佛国新
内閣ノ自由青義ヲ抑フルノ改策ヲ可トセザル
ニアラザルモ而モ猶ホ其ノ為ス所ヲ以テ不十分
ナリトシ急激王党ヲシテ代リテ政権ヲ統ヘ
シメムコトヲ希ヒ巴里駐留ノ墺国大使ハ百
方其ノ力ヲ盡シテ此ノ事ヲ周旋シメテルニツケ
モ亦切リニ露帝ニ説クニ リシユリー内閣ガ
ニ強固ナル同盟トナスニ足ラザル所以ヲ以テ
シ同内閣ガ一方ニハ急激王党ニ迫ラレ他方ニハ
自由党ニ脅カサレテ唯ダ能ク自ラ全クセム
コトヲ計ルノ外復タ他ニ為スニ足ルベキモ
ノアラザル所以ヲ以テシ其ノ徒ラニ競々然

トシテ右党ノ為メニ央マラレ左党ノ為メニ陥
ヒレラレムコトヲ恐レルガ為メ外交上ノ問題ニ
就テ断然タル措置ヲ施スコト能ハザル所以ヲ
以テシ而シテ他方ニハ更ニ佛国政府ニ向フテ務メ
テ苟且同盟ヲ事トスルノ得策タルヲ勸告シ由リ
テ以テ露帝ニ對シテ佛国内閣ヲ攻撃スルノ辞
柄トナサムト欲シ斯ノ如クシテメテルニツケハ
アレキサンドルトリシユリユートノ情義ニ由リテ
將ニ露仏二国ノ間ニ成立セントスル結合ヲ破
ラムコトヲ試ミタリ

其六　西班牙及ヒ葡萄牙ノ革命

之ト同時ニ露国政府ハ神聖同盟ヲシテ西班
牙ノ事ニ干渉セシメムコトヲ試ミタリシモ是

レ亦其ノ効ヲ奏スルコト能ハサリキ蓋シ露西
ハ西班牙ニ於テモ亦仏國ニ於ケルト均シク千八
百十五年以来最モ勢力ヲ占有シ雖納會議
ノ後チ露國ハ常ニ西班牙政府ノシテ自己ノ政
策ニ協同セシムルコト亦猶ホ佛國政府ニ於
ケルガ如ク其ノ南米殖民地トノ戦ニ於テ列国
相俱ニ西班牙政府ヲ援ケムコトヲ計リタルモ
英國ヲ首メ自餘ノ列国皆其ノ意見ニ從
フコトヲ肯ムズ特ニ英國政府ハ殖民地ノ叛
徒ニ陰カニ其ノ援助ヲ與フルノ顔キアルヲ以テ
叛徒ノ勢益々熾ムニシテ千八百十九年頃
ニ至リ本國政府ハ殆ムト其ノ權力ヲ回復スル
ノ望ヲ失ヒ西班牙王ハ墨西ノ兵力ヲ竭リスモ

其ノ能ク叛徒ノ征討ニ派遣スルヲ得タル者ハ
僅カニ二萬乃至二萬五千ニ過ギズ而シテ其ノ兵
士ハレオン島ノカヂワキス附近ニ上陸シタル後チ
運搬ノ便ナキガ為メ此地ニ滞留スルコト殆ムド
一年ノ久シキニ亘リシカバ立憲党ノ首領ノ將
校トナリテ軍中ニ在ルモノ此ノ滞留ヲ機トシ
テ其ノ部下ノ兵士ヲ叛乱ヲ煽動シ千八百二十
年一月一日大尉リエゴーノ一群アンダルージー
於テ始メテ叛旗ヲ翻ヘシテヨリ其ノ叛乱ハ二
ケ月ヲ出テズシテ忽チ全西各地ニ蔓延シ其ノ
勢ヒ殆ムド得テ当ルベカラズ是ニ於テ西班牙王
フエルデナンド七世ハ大ニ恐怖ノ念ヲ生シ乱徒ノ
首領ノ希望スル所ニ從フテ嘗テ千八百十二

年ヲ以テ制定シタル民主旨義ノ憲法施行スル
ヲ諾シ往キニ國外ニ放逐シタル愛國党ヲ召還シ
テ之ヲ其ノ内閣員ノ中ニ加ヘ其ノ年ノ七月ヨリ自
由ノ選擧ニ成レル議會ヲ開キ王ガ千八百十四年
以来復興シタル独裁特権ノ制度ハ其ノ後チ
數月ナラズシテ殆ム壞崩跡ナキニ至レリ
露帝ハ常ニ一切ノ叛乱ヲ以テ正当ナラザルモノト
シ之ニ對シテ必ス神聖同盟ノ干渉ヲ加ヘナルベ
カラズト信スル者ナリ故ニ西班牙変乱ノ報ニ
接スルヤ大強國相合シテ同國ノ秩序ヲ回復
シ已ムヲ得ザルノ場合ニハ兵力ヲ用ヒテ其ノ
叛乱ヲ鎮定セムコトヲ提議セリ然レドモ西
班牙ノ軍策ハ英國ノ最モ利トスル所ナルヲ

以テ英國政府ハ肯テ露帝ノ提議ニ應セズ言
フ西班牙ノ変乱ハ未タ以テ歐洲一般ノ平和ヲ擾
ダスニ至ラズ然ルニ今若シ之ニ對シテ神聖同
盟ノ干渉ヲ加フルトキハ適ニ以テ西班牙王民ノ
猜忌心ヲ挑発シ之レガ為メ王ルヂナンド七世ニ
利スル所ナクシテ却テ之ヲ禍ヒスルニ至ルコト恰
モ往時佛國ノ革策ニ際シテ立君國ノ同盟
十六世ルイーヲ禍ヒセシガ如クナルベシト此
ノ説良トニ一理ナキニアラズ然レドモ是レ唯
ダ一個ノ辞柄ニ過キズシテ英國政府ノ真意ハ
西班牙ヲシテ党派ノ分争ノ為メニ其ノ殖民地ヲ
征服スルノ力ヲ失ハシメムト欲スルニ在リ且ツ
神聖同盟ニシテ果シテ兵力ノ干渉ヲ西班

牙ニ加フルトスルモ之カ実行ニ任ズル者ハ独リ
佛蘭西ニ外カナラズ然ルニ葡萄牙ニ於テモ亦
千八百二十年八月以降西班牙ノ革命ト其ノ
起因其ノ主張ヲ同クセル革命ヲ起シタルヲ
以テ露佛二国ノ勢力ハ西班牙ヨリ施キテ葡
萄牙ニ及ボスノ恐レナシトセズ是レ英国政府
ガ露帝ノ要求ヲ拒ミテ之ニ應スルコトヲ肯
ムセサリシ所以ナリトス
佛国ガ其ノ権力ヲ振張スルヲ恐ルヽノ心ハ墺
国政府ヲシテ亦露帝ノ提議ニ反對セシメ
而シテ普魯政府モ亦墺国ノ意見ニ賛同
シタリ蓋シメテルニヲイハ国ヨリ西班牙及葡
萄牙ノ革命ヲ恐レザルニアラザルモ而モ其

ノ恐ルベキハ十八世紀イヲシテ之ヲ鎮壓シ
タルノ功ニ由リテ其ノ勢力ヲ西歐ニ專ラニセシ
ムルノ恐ルベキニ若カスト為シ且ツリシユリユー
内閣ガ其ノ能クピレネー山ヲ越エテ走征軍
ヲ西班牙ニ送ルノ危険ヲ冒スヲ有ヒアラザルヲ
察シ乃チ露帝ニ告クルニ此意ヲ以テシタリ
リシユリユーハ固ヨリ露仏ノ妥協ヲ欲セザルニ
アラザルモ当時仏国ニ於テモ亦秘密結社
ノ存リニ係ル謀ヲ事トスル狀アルカ為メ今若
シ公然西班牙ノ事ニ干渉シテ其ノ革命ノ擾
乱ヲ禁壓セシト欲スルトキハ遂ニ自国ニ於テ
革命ノ爆発ヲ招クノ恐レナシトセズ要スルニ
神聖同盟ハ西班牙ノ革命ニ對シテモ亦猶ホ

佛西ノ革命ニ對スハガ如ク遂ニ之ヲ鎮壓スル
ニ足ラザリキ而シテ其ノ然ル所以ハ亦唯タ同
盟ノ意見區々ニ分レテ共同一致ノ運動ヲ事ト
スルコト能ハザリシニ由ラスムハアラズ

其七　ナープル革命及ビトロポー會議

神聖同盟ハ独リ墺國ノ伊太利ノ革命ニ
對シテ其ノ干渉ヲ行フコトヲ得タリ是レ他ナ
シ同國ニ於テハ一大強國ノ斷然意ヲ決シテ其
ノ干渉ヲ行フノ衝ニ当リ然シテ他邦ノ之ニ妨
害ヲ加フルモノアラザリシガ故ナリ是ヨリ先キ
千八百十五年ノ條約ニ據リテ墺國ガ伊太利
半島ノ權ヲ握有スルニ至リタルハ既ニ本書ノ卷
首ニ於テ詳述セシガ如シ然ルニ此ノ國人民モ

亦日耳曼諸邦ノ人民ト均シク嘗テ拿破烈
翁征討ノ為メニ同盟軍ニ加ハリシ際ニ期待シ
タル所ニ反シテ其ノ独立自由ヲ得ルノ望ミヲ失
ヒ数多ノ小專制君主ハ才識ヲ有セズ名譽ヲ
重ムセザル墺國ノ為メニハ奴隷トナリ其ノ臣民ノ
為メニハ暴主トナリテアルプス山ヨリバルチック海
及ビメシース海峡ニ至ルノ間ニ近世ノ思想ト相容
ル、コト能ハザル同時ノ制度ヲ復立セリ故ヲ以
テ此ノ國ニ於テモ亦猶ホ西班牙ニ於ケルカ如ク
秘密會社ハ到ル處ニ組成セラレ陰謀ヲ企ツ
ルモノ日ニ益ニ多キヲ加ヘ嘗テメテルニッチガ
永ク煙滅シタレリト思料シタル國民独立ノ精
神ハ油然トシテ興起シ来リナープルノ人民ハ他

ニ先ムシテ叛乱ノ例ヲ示シ及ビアグリー
ニ屯駐セル軍隊ハ千八百二十年七月二日ヲ以テ
恰モ西班牙領ノレオン島ニ於ケルガ如ク千八百十
二年ノ憲法ヲ施行スベキヲ宣言セシカバナープル
ノ老王フエルデナンドハ大ニ之ヲ恐怖シ亦其ノ
嬢西班牙王ノ為セシ所ニ倣ヒテ新憲法ノ施行
ヲ諾シ其ノ政権ヲ独立党ニ與ヘ聖書ニ對シテ
國民ノ権利ヲ尊重スベキヲ誓言セリ然レド
モ王ノ詐リ多キハ西班牙王ニ譲ラスシテ西班牙
王ガ誓ニ背キテ窃カニ露國ノ援助ヲ乞ヘルガ
如ク王モ亦誓ニ背キテ墺國ノ軍兵ヲ招キ以テ
軍金党ヲ鎮壓センコトヲ計レリ
維納朝廷ハナープル王ノ乞ヒニ接シテ片時モ猶

豫スルコトナク八九月ノ交ニ於テ墺國ノ軍兵ハ
ロンバルデー及ビヴエニチーニ充満スルニ至レリ其ノ
意蓋シ以為ヘラクナープルノ軍隊ハ伊太利全土
叛乱ノ端緒ニシテ若シ之ヲ不問ニ附スハトキハ
是レヨリ更ニ蔓延シテアルプス山ニ達シ伊太利
半島ヲ擘ケテ全ク外国人ノ覊絆ヲ脱スルニアー
ラスムバ休セザルベシト是ヨリ先キ千八百十五年
ノ條約ニ由リテナープル王ハ墺國ノ羈絆ヲ得
ルニアラスムバ其ノ臣民ニ憲法ヲ與フルコト無
ルベキヲ約セリ故ニメテルニッチハ墺國ガ兵力
ヲ用ヒテナープルノ軍隊ヲ鎮壓スルハ則チ其事
ノ権利ニ属スル者ナリト為セリ然レドモ預メ
他ノ強大国ノ志向ヲ詳カニセスシテ慢ニ兵力

干渉ヲ事トスルハ亦其ノ俄カニ為シ得ル所ニ
アラズ殊ニ佛國ノ王室ハナープル王ト親族ノ関係
ヲ有シ常ニ墺國カ半島ニ於テ独リ其ノ權カヲ
振フヲ憎ムノ狀アルヲ以テ或ハ墺國ト協同シテ
之ト倶ニ其ノ干渉ノ利益ヲ分タムコトヲ求メ
シムルカ然ラスムハフエデナンド王ト其ノ臣民ト
ノ間ヲ和解シテ墺國ノ干渉ヲ未然ニ防カムト
欲スルノ恐レナシトセズ果セル哉リシユリユー内
閣ハ第二ノ策ニ出デ、ナープル王ト其ノ臣民
トノ間ヲ和解セムコトヲ計レリ蓋シ佛國政
府ガ第一ノ策ニ出デ、墺國ト倶ニ兵カヲ用
ヰテ伊太利ノ軍備ヲ禁壓スルヲ敢テセザリシ
ハ國内ノ自由党ガ之ニ激シテ騒乱ヲ起スノ
患アルカ為メニシテ之ト同時ニ援ケテナープル
ノ軍備党ニ假シテ其ノ新政府ヲ扶立スルトキハ
之カ為メ更ニ急激党ノ怨ヲ買フノ恐レナシトセ
ズ然ラバ全ク此ノ問題ヲ不問ニ附シテ顧ミルナ
カラムカ自由党ト王党トハ交ク起リテ其ノ外國
ニ對シ其ノ威權勢力ヲ失墜シタルヲ雖詰ス
ルヤ必セリ故ニ佛國政府ガ此ノ問題ニ就キテ
最モ其ノ力ヲ盡スベキハナープル人ヲシテ自ラ
其ノ憲法ヲ改正セシメフエルデナンド王ヲシテ
憚ル所ナク之ヲ兼認セシメ又能ク露帝ヲシテ
之ヲ以テ立君青義ニ稱ヘル者ト視做サシ
ムルニ在リ此ノ事ニシテ果シテ成就スルル得
バ佛國政府ノ功タル極メテ大ニシテ其ノ光

榮亦決シテ小ナリトセズ然レドモ佛國ヲシテ至大ノ功ヲ收メシムハ是レ則チ墺國政府ガ其ノ全力ヲ竭クシテ妨害ヲ加ヘムト欲スル所ニシテ メテルニフチハリシユリユーノ方案ヲ打破スルガ為メ伊太利問題ヲ五國同盟ノ協商ニ附シ仍テ其ノ允許ヲ得テ墺國自ラ歐洲全体ノ意思ヲ實行スルノ任ニ膺ラルノ策ヲ案出シ乃チ此ノ協商ヲ遂クルガ為メ千八百二十年十月二十五日ヲ以テトロポーニ於テ列國會議ヲ開キ露墺ノ二帝普王並ニ清國ノ全権使臣皆其ノ會ニ赴ケリ此ノ會議ハ二ヶ月ノ久キニ彌リ其ノ間メテルニヒノヲシテ外交上ノ技能ヲ困頓挫折セシメタルモノ一ニシテ足レリトセズ然レドモ彼レハ遠ク將来ヲ慮カルノ明ナキモ現在ノ困難ニ際會シテ巧ミニ之ヲ回避スルハ其ノ最モ長スル所ナルヲ以テ之レガ為メ曾テ其ノ志氣ヲ沮喪スルコトアラザリキ當時墺國ノ招請ニ應シテトロポー會議ニ參列セル四大強國ノ中ニ就キテ墺國ガ毫モ其ノ反對ヲ恐レザルモノアリ普國是レナリ能ク其ノ行動ノ自由ヲ有シテ斷シテ墺國ノ主張ニ反對シ以テ其ノ計畫ヲ妨害スルニ足ラナルモノアリ佛國是レナリ然レドモ佛國ハ自餘ノ二國トノ中間ニ孤立シテ其ノ不和ヲ利用スルヲ得ベカラザルニアラズ現ニ露國ト英國トハ各ゝ反對ノ意見

ヲ持シテ本會ニ莅ミタルモノニシテ露帝ハ
其ノ平生確信スル所ノ肯義ニ本キテナープル
問題ヲ以テ歐洲内ニ発生セル自餘ノ問題ト
齊シク神聖同盟ノ裁決ニ附ベキモノ
トシナープルノ憲法ハ叛民ガ其ノ君ニ迫リテ
之ヲ施行スルニ至レル者ナルガ故ニ兵力ヲ用ヰテ
之ヲ廃止セシムルモ亦決シテ不可ナル所アラズ
ト為セリ然レドモ露帝ハ更ニ此機ニ乗シ列
國ヲシテ神聖同盟ガ全歐洲ノ治安ヲ維持シ
諸條約ノ実行ヲ確保スルガ為メニ諸國ノ内政
ニモ渉スルノ権利アルコトヲ確認セシメムト欲
シ會議ニ於テ先ヅ明白ナル宣言書ヲ発シテ右
ノ原則ヲ確立シ然ルノチ其ノ原則ヲ應用シ
シテ墺國ノ兵ノナープルニ進入スルヲ許容スベシ
ト主張セリ且ツ他ノ一方ニ於テハ露帝ハ今尚ホ刈
テルニッチガ主張スルガ如キ守舊説ヲ信スルニ
至ラスシテ半バ自由肯義ヲ喜フノ趣キアルヲ
以テ人民ニ對シテ漫ニ暴虐ノ行ヲ事トスル
ヲ好マズ帝ハ唯ダ神聖同盟ガ叛民ニ對シテ君
主ヲ保護スルガ為メニ兵力ヲ用ヒルコトヲ可
トスル者ニシテ君主ガ隨意ニ附與シタル自由
ノ権利ヲ勦絶セムト欲スル者ニアラズ故ニ露
帝ハナープル問題ニ就キテ墺國ガ兵力ヲ用ヒテ
叛乱ヨリ生シタル憲法ヲ廃止スルヲ非トスルコ
トアラサリシモ而モフエルヂナンド王シテ再ヒ
其ノ主権ヲ專有シタル後チ更ニ其ノ臣民

ニ適當ノ憲法ヲ賜與セシメサルベカラストナセリ

露帝ノ此ノ提議ハ大ニメテルニツチヲ困惑セシメタリ是レ他ナシメテルニツチハ平素專制政ヲ除ク外敢テ他ノ政体ヲ是認スルコトナクナープルニ於テモ必ス專制政ヲ復立セムコトヲ期シタルカ故ナリ將タ露帝ノ主張セルカ如ク神聖同盟ノ旨義ヲ宣言書ニ拠リテ表明スルノ一事ハメテルニツチハ之ヲ以テ有害無益ノ事ナリトナシ之カ為メ適ニ歐洲全土ニ於テ革命ノ氣燄ヲ激成スルニ至ルベシトナセリ且ツメテルニツチガ露帝ノ主張ヲ以テ最モ不可ナリトナスハ其ノ主張ノ英國政府ニ容レラレザルニ在リ蓋シ当時英國ノ政

策ハ露國ト大ニ其ノ趣ヲ異ニシ其ノ外務大臣カストレーグハ首相リバープール卿及ヒ其ノ同僚ト倶ニ痛ク革命旨義ニ歆意ヲ表シ自國ノ議院制度ハ敢テ之ヲ侵害スルノ意ナシト雖モ自餘ノ歐洲諸國ニ於テ同一ノ制度ヲ設クルコトヲ好マズ故ニ千八百十二年ノシヽル國憲法ノ如キハ其ノ始メ英國ノ勸誘ニ由リテ成レル者タルニ拘ラズ千八百十五年以降カストレーグハ之ヲ抛棄シテ顧ミルコトナク千八百二十年ノナープル憲法ニ至テハ其ノ之ヲ嫌忌スルコトメテルニツチニ讓ラズ墺國ガシヽルノ秩序ヲ回復スルガ為メニ兵力ヲ用ヒラルハ啻ニ千八百十五年六月十二日ノ條約ノ許ス所タルノミナラズ伊太利ニ於テ其ノ正当

ノ権力ヲ行フヲ妨クベキ運動ヲ制止スハ之ニ須要久
クベカラズトナセリ其ノ言ニ云クナープルノ軍金ノ
為メニ直接ニ危害ヲ被ムルモノハ墺國ナリ故ニ
墺國カ兵力ヲ用ヒテ之ヲ鎮壓スルハ是レ其ノ
自國ヲ防衛スル所以ニシテ英國ハ一モ之ニ故障
ヲ加フルノ意ナシ若シ英國ニシテ之ニ均シキ
危難ニ遭遇セバ其ノ為ス所ハ亦必ス墺國ニ為
ス所ニ異ナラザルベシ故ニ墺西ハ其ノ兵ヲナープル
ルニ出スカ為メニ他國ノ許可ヲ求ムルノ要ナク
英國モ亦之ニ許可ヲ與フルノ権ナシトカスト
ハコノ趣旨ニ本キテ極力露帝ノ干渉旨義ヲ
一般ニ且ツ恒久ノ法則ト為スノ説ニ反對シテ五
國同盟ノ本旨ニアラストナシ以為ヘラク五大

強國ハ唯ダ千八百十五年ノ條約ニ於テ定メタル
領土ノ均衡ヲ保進スルガ為メニ相合シタルモノニ
テ其ノ道德上ノ均衡即チ諸國各ヽ其ノ内部ニ
於テ某種若シクハ某種ノ政策ヲ設クルガ如キ
ハ際ニテ其ノ間ニ所ニアラズ唯ダ特定ノ場合
例セバ拿破烈翁ノ系統ガ佛國ノ帝位ニ即ク
コトヲ許サヾルカ如キハ固ヨリ此ノ限リニアラズ
ト雖ドモ此ノ場合ヲ除キテハ共同干渉ノ権利
ヲ存スルコトナク各國ハ自ラ其ノ利益ノ在ル
所ヲ審按シ若シ隣邦ノ外政ノ為メニ危害ヲ被
ムルノ恐レアリト思料スルトキハ各ヽ之ニ對シテ
施スヘキ措置ヲ定ムルコトヲ得ヘキモ神聖同盟
カ都テノ場合都テノ邦國ニ於テ或種ノ政理ヲ

排斥シ或種ノ政理ヲ扶立セシナムコトヲ約スル
ハ極メテ不可ナリ凡ソ熟レノ國民ニ論ナク苟モ独
立ノ氣象ヲ具フル者ハ他国ガ一ノ抽象的理論
ニ因拠シテ其ノ内政ニ干渉スルヲ好ム者ニアラズ
即チ我ガ英国ノ如キ其ノ国法若クハ政体ニ就キ
テ法シテ他国ノ容喙ヲ許スコト能ハズ要スルニ
英國ハ墺國ガ一已ノ責任ヲ以テ兵ヲナープルニ出ダ
スコトヲ拒マザルモ露帝ノ提議ニ係ル宣言書
ノ発布ニハ断シテ同意ス表スルコト能ハズト
政府ノ右ノ議論ハ頗ル巧慧ヲ極メタル者ト謂フ
ベキナリ蓋シ英國ハ其ノ議制度ノ根底極メテ
守固ニシテ何人ト雖ドモ之ヲ動ガスコト能ハサ
ルノミナラズ当時國民ノ信望ヲ得ザルジヨー

ルジユ四世新タニ位ニ即キテ自由民権ノ説
大ニ起リ殆ント國中ヲ震蕩スルノ勢アリシヲ以
テ君主ガ恒久ニ人民ヲ敵トシテ十字軍ヲ起スニ
均シキ政策ニ同意ヲ表スルコトハ英國ノ大臣等
ガ表面上到底ナス能ハザル所ニシテ彼等ガ理論
上ヨリ神聖同盟ノ干渉ヲ排斥セシノ真意蓋シ
之ニ在リ且ツ一タビ露帝ノ説ヲ容ルヽトキハ帝ハ更
ニ其ノ説ヲ擴充シ西班牙ニ對シテ兵力干渉ヲ
試ミルノ権利ヲ得ムコトヲ欲スルヤ必然疑ヲ
容レズ是レ英国カ断シテ耐フル能ハサル所ノ者ナ
リ但ダ夫レ墺国ヲシテナープルノ羣余ヲ鎮靡
セシムルハ国ヨリ英国ノ望ム所ニアラストセズ他
ナシ佛國ガ其ノ勢力ヲ伊太利ニ及ホハコト能

ハサルハ英国ノ最モ利トスル所ナレハナリ
佛国ノ全権委負ハ露国ノ主張ト英国ノ主張ト
ノ中間ニアリテ大ニ其ノ採擇ヲ決スルニ惑ヘリ
其ノ自国ニ於テ憲法ヲ施行シタル点ヨリ之ヲ言
フトキハ彼等ハ則チ憲法制ノ擁護者ニシテ
良トヨリ露帝ノ唱道スルカ如キ干渉ノ権利ヲ
是認スルコト能ハズ然レドモ更ニ他ノ一方ヨリ言ヘ
ハ露帝ノ意見ニ反對ヲ表シテ其ノ忌諱ニ觸ル
ハ其ノ多年熱望セル露佛同盟ノ成立ヲ妨クル
所以ニシテ亦其ノ欲スル所アラズ故ニ彼等ハ
ナルニ於テ全ク議院制度ヲ滅却スルナカラシ
コトヲ望メリ然レドモ彼等ハ之レカ為メニ英
ノ協賛ヲ得サルベカラズ而シテ英国ハ遂ニ

其ノ協賛ヲ彼等ニ與フルコトヲ肯ムセサリキ
以上述フルカ如ク諸大国ノ意見相容レスシテ其
ノ利害相容レザルガ為メニトロポー會議ハ要
スルニ下ノ如キ結果ニ帰底シタリ即チ英国ハ極
テ明白ナル言辞ヲ以テ佛国ハ頗ル曖昧ニシ
テ頗ル温和ナル言辞ヲ以テ俱ニ露西亞提議
ニ係ル宣言書ノ発表ニ反對シ會議ハ神聖同盟
ニ分離ヲ生シタル丘上ニ示スヲ欲セスシテ其ノ
議定書ヲ公ニセサルニ決シ英仏二国ノ全権委
負ハ其ノ後引續キ會議ニ列セザルアラザル
モ其議決ニハ都ヘテ調印ヲ施スコトヲ肯ムセサ
ルヲ以テ爾来事ハ露西亞ノ二国間ニ於テ諸
事ヲ決定シ而シテメテルニッチハナープルノ憲

法ニ就キテ露帝ノ反對ヲ排除スルガ為メ宣言
書ノ発表ニ関シ故ラニ露帝ノ容ルヽコトヲ喜
バザル要求ヲ提出セリ其ノ事タル他ナシ其ノ君主
カ自由ニ革命肯義ニ譲歩シタル邦ニ對シテモ
均シク神聖同盟ニ於テ干渉ヲ加フルノ権利アル
ヲ確認スルノ謂ヒニシテノミナラズ之ニ由リテ
就中露帝ノ保護ヲ受ケタルバード、バウイエー
ル、ウユルテンベルグ等ノ諸君主ニ干渉ヲ加ヘム
ト欲シタルナリ是ニ於テ露帝ハ其ノ相カポー、
ヂストリアノ諫ヲ用ヒズシテトロポー會議ニ於テ
モ亦猶ホヨキスラシヤツペール會議ニ於ケルカ如ク
遂ニメテルニツチノ説ニ屈服シテ墺国政府ガナー
プルニ於テ專制政治ヲ復活スルヲ許容シ而シテ
墺国ハ之レガ報酬トシテ宣言書ノ発表ニ関
スル其ノ要求ヲ撤回シタリ
十一月十三日露墺普ノ全権委員ノ調印シタル
宣言書ハ十二月八日ヲ以テ露国ヨリ之ヲ諸国ニ通
知セリ今其ノ大要ヲ示サムニ其ノ言ニ云ク
『歐洲同盟ニ加入シタル国ニシテ牧乱ノ為メニ
屢々其ノ國内ノ政制ヲ変更シ施ヒテ他国ニ
危害ヲ及ボスノ恐アルモノハ之ヲ同盟ヨリ除キ
テ其ノ能ク安寧秩序ヲ保障スルノ形勢
ヲ呈出スルニ至ルマデ再ヒ之ヲ同盟ニ加フル
コトナカルベシ
『同盟國ハ單ニ右ノ國ヲ同盟ヨリ除キタルコト
ヲ宣言スルニ止マラズ固ク其ノ宣示シタル旨

義ヲ兼持シ当ナル政府ノ権力ト其ノ自由ノ
意思ヨリ出デタル各般ノ措置トヲ敬重シ不
正ノ手段ヨリ成レル変革ハ之ニ義認ヲ與フル
コトヲ拒ムヘキヲ約ス
若シ右ノ如キ変革ヲ生シタル國ニシテ其ノ接
隣ノ諸国ニ危害ヲ及ボスノ虞アルトキハ同盟
國ハ之ニ對シテ先ツ友誼上ヨリ再ヒ同盟ニ加ハ
ラムコトヲ勸告シ萬已ムコトヲ得ザル場合
ニハ兵力ヲ用ヒテ同盟ニ入ラシムルコトアルベシ
右ノ宣言ハ當初ヨリ世人ノ豫測シタル神聖
同盟ノ政策ヲ明白ニ文字ノ上ニ表彰シタル
モノニシテ政洲全土ニ至大ノ反響ヲ生シ神聖
同盟ガ風トニ革命肯義ヲ敵トシテ十字軍ヲ
起スノ企圖ヲ懷抱シテ政洲中ニ於テ最モ
恐ルベキ露墺普ノ三大強国ガ其ノ企圖ヲ實行
スルノ任ニ膺レルコトハ復タ掩フ可ラザル事実
トナレリ然レドモ此ノ宣言ニ對スル英国政府
ノ抗言モ亦大ニ世人ノ注意ヲ惹キカトレーグ
ガ十二月十九日及ビ翌年一月十六日ヲシテ三國ノ
宣言書ヲ駁撃シタル二通ノ公文ハ英国政府ガ
干渉説ヲ憎ムノ何カニ甚タシキカヲ表明ス
ルヲ得タリ而シテ佛国政府モ亦千八百二十一年
二月ヲシテ十五ルイヒニアラスムバ三國ノ宣言ニ同意ヲ表スルコト能
ハザル旨ヲ告白セリ但タ夫レ英国政府ハ其ノ抗
言ニ拘ハラズ墺国ガナープルニ於テ軍隊肯義ヲ撲

滅セルヲ傍観シ佛西政府モ亦其ノ内心ノ希望ニ反シテ然之ニ反對ヲ唱フルコト能ハザリキ然レドモ世人ハ二国ノ抗言異議ニ由リテ神聖同盟ノ間ニ其ノ意見ノ相容レザルモノアルヲ知リ該同盟ガ早晩必ス欧洲列国ヲ統率スルノ勢力ナキニ至ルベキヲ察シ佛国若シクハ英国ニ於テ自由党ガ政権ヲ掌握シタル日ニハ其ノ言フ所ハ カストレーグ 及ビリシエリエーニ異ナルコトナキモ其ノ為ス所ハ必ス其ノ言フ所ニ合シ二国ノ反對ハ遂ニ神聖同盟ヲ破壊スルニ至ルヘキヲ思料セリ

第八 ピヱモンノ革命ニ希臘ノ騒乱及ビメテルニッチハ此間ヲ以テ着々自家ノ経綸ヲ実行シ列国會議ヲトロポーヨリ伊太利ニ接近セルレーバックニ移シナープル王ヲ會議ニ参列セシメテ同盟国ト倶ニ其ノ国内ノ秩序ヲ回復スルノ方法ヲ協定スルコトヽナセリ憶フニ当時ナープル議会ノ為メニ計ルニ王ヲ抑留シテ列国會議ニ赴クコトヲ得セシメナルカ然ラスンバ佛国政府ノ勧告ニ従ヒ其ノ憲法ヲ改正シテ立君制ニ適應セシメ墺国ヲシテ其ノ口ヲ假スニ由ナカラシムルニ若クハナシ然ルニ議會ノ為ス所ハ二者其ノ一ニ出ツルコト能ハズシテ其ノ憲法ハ確定動カスベカラザル者トシ王ハ固ク憲法ヲ遵守シテ渝ルコトナキヲ誓約シタル后チナープルヲ出ツルノ允許ヲ得タリ既ニシテ王ハ十二月十六日リ

ブールヌニ到ルヤ忽チ其ノ誓約ニ背キテ神聖同
盟ヨリ兵力ノ援助ヲ喪ヒ以テ其ノ臣民ヲ討伐
センコトヲ哀求シ一月上旬ニハレーバツリニ到リテ
ナテルニツチト會合シメテルニツチハ切ニ王ニ告ク
ルニ其ノ曩キニ百方歓心ヲ求メタル立憲党
ニ向フテ俄カニ暴慢ナル言辞ヲ用ヒ忍ノ政洲
列国ニ對シテ自家ノ名誉ヲ辱ムル所以ナルヲ
以テシ王ノ為メニ書ヲ認メテ其ノ擅改トシテ国
ニ留メタル王子ニ神聖同盟ノ意思ヲ告ケ又
其ノ人民ノ之ニ服従スベキヲ諭シ然ル后チ伊太
利中ノ諸君主ハ皆ナ議會ニ列スルコトヲ許シタル
ニ法王ヲ除クノ外悉ク擅国ノ提案ニ賛同セリ
是ニ於テナープル王ハメテルニツチノ言ニ従フテ其

ノ政制ヲ改ムベキヲ約シ其ノ年ノ二月レーバツクヲ
辞シテ帰途ニ就キタルモ猶ホ痛ク革命党ヲ
恐怖シテ途中ニ掩留シ墺国ノ軍兵ノ到着スルヲ
待チテ徐ロニ其ノ国ニ入レリ
戦ノ勝敗ハ預シメ定マレリ三月初旬墺国ノ兵
ハナープルノ國疆ニ迫リ七日リーチニ於テ立憲党
ノ兵ヲ破フリ十五日ヲ経テナープル市ニ到リフロルチ
ナンド王ハ其ノ保護ヲ恃ミテ蓐リニ立憲党ヲ
迫害シ其ノ残暴酷虐至ラサル所アラザリキ
レーバツクノ列国會議ハ此ノ時ヲ以テ一旦閉會ヲ
告ケ列国ノ君主及ヒ全權委員等ハ更ニ来ル九
月ヲ以テフロランスニ會合シ伊太利ノ状況ヲ視察
シ之ニ處スルノ方法ヲ協定スベキヲ約シナープル

ニ於テ全ク其ノ平和ヲ回復シタルノ報ニ接スルニ
至ルマデ猶ホレバワクニ留ミルベシトナセリ然
ルニ此間ニ於テ二國ノ重大ナル變報ハ一時ニ
レバノ ニアル列国ノ君臣ヲ驚カセリ即チ其ノ
一ハ ピエモンニ於テモ亦其ノ軍兵暴動ヲ起シテ
新メニ憲法ヲ施行シ其ノ二ハ イプシランチー公兵
ヲ開ヒテ ダニューブ 沿岸ノ諸公領地ニ侵入シ布
臘全土ヲ騒動シテ土耳格ニ叛カシメタルノ
變報是レナリ
蓋シ ピエモン王 ヴイクトル、エマニユエール 一世ガ專濫ノ政
ヲ事トスルハ フエルヂナンド 王ノ ナープルニ於ケルト
殆ント異ナル所アラザルヲ以テ ピエモンノ愛国
党ハ墺国ノ兵力半島ノ南部ニ向ヘルニ乗シテ

起リテ其ノ自由ヲ回復セント欲シ サンタ、ロザ、リジ
オ、コレニヨリノ徒ハ三月十二日以来既ニ アレキサンドリ
ヨリ及ビ チユラン ヲ占領シ王ハ位ヲ其ノ弟 シヤル、フエリツ
キスニ譲リ而シテ シヤル、フエリツキス亦国ニアラスシテ
シヤル、アルベール代リテ国政ヲ摂理シタルヲ以テ
叛徒ハアルベールニ迫リテ千八百十二年ノ西班牙憲
法ヲ施行セシメ其ノ党類ハ更ニ中部伊太利ニ起リ
其ノ餘波施キテ佛国ニ及ホスノ勢アリ国ヨリ墺
国ノ兵力ハ其ノナープルヲ征スルト同時ニ亦能ク
チユランニ當ルニ足ラザルニアラス然レドモ若シ墺
国ガ伊太利ノ革命ヲ禁壓スルカ為メニ其ノ兵力
ノ大部ヲ用ヒラルノ間ニ土耳格帝国ニシテ露国ノ
援ヲ受ケタル党派ノ為メニ傾覆セラルヽガ如

キコトアランニハ是レ豈ニ千八百十五年ヲ以テ辛
フシテ定メタル列國ノ均勢ヲ破ブリ歐洲全土ヲ
シテ一大危朝ニ遭遇セシムルノ端緒ヲ啟クモノニ
アラズヤ

蓋シ当時バルカン半島ニ於テ土耳格ニ對シ起ラタル
叛乱ノ主謀者ノ露帝及ビ其ノ相カポーディストリア
外ナラザルハ初ヨリ明白疑ヲ容ルベキニアラズ是
ヨリ先キ露西ガビエシヤレストノ条約中其ノ意義
明白ナラザル規定ニ就キテ以来土耳格ト争論
ヲ断タザルハ其人ノ夙トニ熟知セル所、希臘
独立党ノ協會カ近年露國ニ於テ大ニ其ノ勢力
ヲ皇張スルヲ得タルハ是亦其人ノ熟知スル所、
之ニ加フルニ カポーディストリアハ千八百十九年ヲ

以テイオニヤン群島ニ赴キテ騒乱ヲ挑発セルア
リ希臘國民ノ密使屢〻露帝ノ許ニ来リテ
帝ガ其ノ首領ヲ指定ス及ビ其ノ叛乱ヲ起スノ
端令ヲ下タサンコトヲ請求セルアリ助ケ希臘
人ニシテ露西ノ叛謀長タル アレキサンドル、イプシランチー
公ガ千八百二十年七月以降聖彼得堡ヲ去リテ
キシエフニ赴キ土耳格ニ對シテ攻撃ヲ加フルノ
準備ヲ為セシガ如キ預シメ露帝ノ許可ヲ受
ケズシテ之ニ出ツルコト能ハサルハ言ヲ待タズ
シテ明カナリ況ンヤ其ノ檄文ニハ明カニ下ノ如キ
言辞ヲ掲ケタルヲヤ云ク「若シ土耳格人ニシテ
卿等ノ疆土ニ侵入スルコトアルモ卿等必ズ之ヲ
恐ルヽコト勿レ卿等ノ後ニハ一大強國アリテ

彼等ノ暴行ヲ懲膺スベキナリト
要スルニ露帝カ当時西歐ノ紛擾ノ為メニ他ノ
諸強国ガ東政ニ憂カハノ暇ナキニ乗シテ専
ラ其ノ手ヲ東政ニ伸バサント欲シ効カニ畫措
スル所アリシヤ知ルベキナリ
然レドモ露帝ハ当時ノ人ノ一般ニ思料セシカ如ク
爾ク狡詐ナル者ニアラズ故ニイプシランチーノ其
ノ事ヲ起スヤ若シ自餘ノ時ニ於テシタランニ
ハ帝ハ必ス其ノ為スヲ処ヲ誤メサリシナルベシ
然レドモ彼レハ其ノ時機ヲ擇ムコト宜シキ
ヲ失ヘリ故ニメテルニッチハ専ラ帝ノ信義ニ
依頼シ告グルニ帝ガ今日ニ至ルニデ其ノ平
和ヲ保障セシコトヲカメタル歐洲全土ヲ
危難ニ陷レ特ニ墺國カ世界ノ為メニ革命ノ
禁毒ヲ掃蕩セントス欲シテ其ノ全力ヲ傾注セル
時ニ於テ故ラニ之ヲ危難ニ陷ヒルヽノ不可ナル所
以ヲ以テシ且ツ云ク墺國ハ唯タニピエモンノ叛乱
ヲ鎮定セザルベカラザルノミナラズ之ヲ外ニシ
テ断ス革命ノ血ニ渇シタル佛國ノ在ルアリ而
シテリシユリユー内閣ハ其ノ力能ク之ヲ制シスル
ニ足ラス曩キニレーバックノ列國會議ニ於テ仏国
ガフヱルヂナンド七世ノ反覆之ヲ請求セシニ拘ラ
ズ西班牙ニ於ケル革命党ノ鎮壓ニ干與スルヲ拒
ミタルハ之ガ為メ其ノ國内ノ民心ヲ激動シ施キ
テ十八世ルイーノ王位ヲ危クセンコトヲ恐レナル
ニ由レルコト現ニリシユリユー内閣ノ自白セルガ如

シ乃チ佛国ガ革命ノ危機ニ迫レル殆ント朝夕
ヲ計ルコト能ハズ是時ニ方リ神聖同盟ノ創立
者タル大強國ノ君主ニシテ歐洲内ニ新タニ紛争
ノ端ヲ啟クナカランコトヲ力ムルハ是レ豈必然
避クベカラサル義務ニアラスヤト
右ノ議論ハ痛ク露帝ニ感激ヲ與ヘ帝ハ自今自
由自義ニ援助ヲ與フルカ如キ措置ニ出ツルコト
ナク断シテ其ノ國力ノ及フ所ヲ竭クシテ革命
ノ毒ヲ除クベキヲ失ヒ加之ナラス十萬ノ兵ヲ出
ダシテ伊太利若クハアルプニ於テ墺國ノ兵ヲ援
ケンコトヲ約シ更ニ其ノ言ノ誠実ナルヲ証明ス
ルガ為メ外交文書ニ由リテ其ノ決シテイプシラン
チーノ擧兵ニ干繫ナキヲ宣言シ痛ク其ノ擧

繫

ノ狂暴ナルヲ外ノ布職人ヲ目シテ革命ノ思
想ニ惑ハサレテ妄リニ叛乱ヲ起セル者ナリトナ
シ之ヲ君主ノ眼ヨリ視ルトキハ毫モ同情ヲ表ス
ベキモノアラズトナセリ要スルニ露帝ハ百方其
ノ手段ヲ竭クシテ當時東歐ニ発生シタル事変
ニ就キテ自己ノ責任ヲ逃レンコトヲ求ムノ外アラ
ザリキ
憶フニ露帝ノ為ス所此ノ如クシテ其ノ言フ所
亦彼レガ如クナリシハ他ニ深ク憂カル所アラ
ザリシヤ否ヤ帝ガ爾後ノ経歴ニ就キテ之ヲ
察スルニ或ハ其ノ然ラザルヲ疑フニ足ルベキモ
ノナキニシモアラズ蓋シ帝ハ其ノ心中ニ於テ
常ニ東歐ノ危機ニ乗シテ自國ノ利益ヲ計ル

コトヲ忘ルヽコトナキモ而モ此ノ時ニ於テ只顧
ラ墺國ノ懽心ヲ收メンコトヲ求メタルハ他ナシ
是レ唯ダ其ノ報酬トシテ將来墺國ヲシテ帝ノ
土耳格ニ對スル企圖ニ異議ヲ挾ムコトナカラシメ
ムト欲シタルガ故ニ外ナラズ而シテ墺太改府
モ亦蓋シ然ルカ如キ狀ヲ粧ヒ露帝ノ好意ノ
變セザル間ニ急ニ其ノ伊太利ノ處分ヲ終ラムト
欲シタル者ノ如シ且ツ墺太ガピエモンノ革命ヲ
鎮定スルハ其ノナープルノ革命ヲ鎮定シタルヨリ
モ速カニシテ敢テ露帝ノ送リタル十万ノ援
兵ヲ待ツノ要ナリ四月八日ナヴールニ於テ一小
戰ヲ為セルノチ墺太ノ兵ハ直チニチエラル
ニ進入シ新タニピエモン王ト条約ヲ訂結シ
テ墺太若干ノ期間内ナルデニヤノ邦土ヲ
占領スルノ權利ヲ得又ナープル王トノ条
約ニ由リテ均シク其軍兵ヲナープルノ領内ニ
屯駐セシムルノ權利ヲ得タリ是ニ於テ伊太
利全土ハ悉ク墺太ノ命令ニ服從シメテルニヲ
チカ視テ以テ政体ノ極致トナセル專制政
ハ到ル處ニ再ビ其ノ暴威ヲ恣ニスルニ
至レリ
諸國ノ君主宰相等ハ千八百二十一年五月ニ至リ
テレーバツクヲ去リ當時神聖同盟ノ眞個ノ精
神ヲ代表シタル露墺普ノ三国ハ長文ノ書
簡ヲ列國政府ニ送リテ其ノ同盟ノ存立ス
ルハ專ラ歐洲ノ福利ヲ圖ルカ為メナルコ

トヲ告ケ最近ノ事変ノ際ニモ同盟國ノ目的ハ
一ニ既訂ノ条約ヲ維持シ一般ノ平和ヲ保護シ
清國民ノ幸福ヲ進ムルニ在リシコトヲ陳ヘ同
盟國ハ叛徒ヲ抑圧テ正當ノ権力ヲ保護スルガ
為メニ他邦ノ事ニ干渉スルノ権利アルコトヲ
説キ『凡ツ國家ノ法律及ビ行政ニ必要ノ変
革ヲ施スニハ必ズヤ神意ニ由リテ其ノ政権ヲ
運用スルノ責任ヲ負ヘル者ノ自由ノ意思ヨリ
出テサルベカラス』ト言ヘリ
右ノ宣言ハ則チ千七百八十九年ノ旨義ニ對シ
テ明カニ開戰ノ告示シタル者ナリ 憶フニ露
墺普ノ三國ハ当時ニ在リテ必ズ此ノ宣言ノ
趣旨ヲ実行スルノ意アリシナラム然レドモ

余輩ガ上文ニ於テ既ニ其ノ端緒ヲ示シ而シテ
更ニ後文ニ於テ其ノ顛末ヲ詳述セムト欲ス
ル東欧ノ問題ハ三國ヲシテ遂ニ永ク共同一致
ノ運動ヲ為サシムルコト能ハザリキ